

(54) HEALTH TEA AND ITS PRODUCTION

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain a health tea which manifests an action to reduce the concentration of nicotine in blood and shorten or eliminate the time of narcomania thereby assisting smooth release from the narcomania.

CONSTITUTION: This health tea contains the components in gymnema leaves in magnetized water. It is prepared by a process in which water is magnetized in the magnetic field and a process in which the leaves of gymnema are leached out in the magnetized water or another contrary processes whereby the leaves of gymnema are leached out in water and the extract solution is magnetized in the magnetic field.

---

(11)Publication number : 57-031620 → See page 10

(43)Date of publication of application : 20.02.1982

(51)Int.CI. A61K 35/78  
A23G 3/00

(21)Application number : 55-103661 (71)Applicant : JIYUUNISHIYO NAOTAKE

(22)Date of filing : 30.07.1980 (72)Inventor : JIYUUNISHIYO NAOTAKE

(54) CANDY ENABLING TO GIVE UP SMOKING

(57)Abstract:

PURPOSE: Seeds of cape jasmine and water are added to thick malt syrup and concentrated with a weak fire, then mixed with an infusion that is made by heating persimmon leaves in water for a few minutes, and they are concentrated to give candies that enables to give up smoking, because it suppresses the withdrawal symptoms caused by giving up smoking to remove irritation.

CONSTITUTION: Thick malt syrup is combined with cape jasmine seeds and water and they are concentrated with a weak fire to half the volume of the water added. Separately,

① 日本国特許庁 (JP) ② 特許出願公告  
 ③ 特許公報 (B2) 昭62-42582

④ Int.CI.<sup>4</sup>A 23 G 3/00  
A 61 K 35/78

識別記号

101

庁内整理番号

8114-4B  
8413-4C

⑤⑥公告 昭和62年(1987)9月9日

発明の数 1 (全2頁)

## ⑦発明の名称 餡

⑧特 願 昭55-103661

⑨公 開 昭57-31620

⑩出 願 昭55(1980)7月30日

⑪昭57(1982)2月20日

⑫発明者 十二所 尚武 浦和市鹿手袋99-2

⑬出願人 十二所 尚武 浦和市鹿手袋99-2

⑭代理人 弁理士 植田 茂樹

⑮審査官 田村 恵理子

1

2

## ⑯特許請求の範囲

1 低糖の水飴中に、柿の葉を煮つめて成るエキスを投入搅拌し、更にこれを煮つめることによつて得た粘稠物中に香料を混入して成る飴。

## 発明の詳細な説明

本発明は、種々の精神的ストレスを抑制する飴、主として、禁煙時の禁断症状から生じるストレスをやわらげる飴に関する。

喫煙が人間の体に悪影響を及ぼすことが指摘されて以来、種々の禁煙又は節煙手段が提唱されており、禁煙用の飴もその一つであるが、これまでのこの種の飴は、一般にニコチン成分に慣れた喫煙者の味覚を満足させるべくニコチン成分と同等の味覚を付与したり、あるいは逆にニコチンに対し急速に嫌悪感をもよおせるべく独得の成分を混入するなどして、喫煙習慣から遠ざけようとするものであり、喫煙者の禁煙時における禁断症状からくるストレスを根本的に抑圧するものではない為、投口者はついこのストレスに抗しきれず、タバコに手を出してしまつといつたことが多く、またこれらの飴は上記味覚あるいは成分を有する関係上、柔軟などして口あたりが悪いばかりでなく、いきおい多糖となつて継続してなめ続けにくるものであつた。

本発明はこの様な点に鑑み、種々の精神的ストレスを鎮めると共に、その口あたりの良さによつて抵抗感なく継続投口の可能な飴を提供し、以つて喫煙者が投口する時は、自然に喫煙習慣から脱却することのできる飴を提供することを目的とす

るものである。以下、本発明の実施例を述べる。

含有麦芽糖値が42%の低糖水飴(昭和産業株式会社製マルトリツチ(酵素水飴標準規格値-直糖32%、デキストリン43%、水分25%))120g及び800ccの水を鍋に入れ、200~500°Cの熱で15分程度、水量が400ccになる迄煮つめて濃縮する。

ここへ柿の葉10gを150ccの水で水量が約半分になる迄煮つめ、灰汁抜きしたものを加え、更にこの混合物中に梅肉の煮熟物を加えて搅拌する。

次いで、これを室温下放置し、完全に冷える前に梅香料、酒石酸を加え、直ちに搅拌した後、俵状に成型して梅味の飴、約40個を得る。

本実施例では含有麦芽糖値が42%の水飴を使用しているが、本発明に用いられる水飴は勿論これに限定されるものではなく、本発明に係る飴が必要以上の甘さを感じさせるものとならないように低糖のもの(望ましくは、含有麦芽糖値が50%以下の水飴)であれば良い。

柿の葉はursolic acid、betulinic acid、oleanolic acid、triterpenic acid、及びアドウ糖、果糖を含んでおり、一般には肥溝を止める薬草として用いられているが、高血圧症にも有效であり、特にこれを継続投口する時は、その鎮静作用によって神経の安定化を促し、種々の精神的ストレスを抑制できるものであり、本実施例では水飴120gに対し10gを混入したが、所望によりその量は増減できる。また場合によつては、この柿の葉と共にくちなしの実を混入すれば、くちなしの実の有する血圧降下作用等によつて、上記柿